

学生やOBら集い交流 脇村奨学会が研修会



多くの奨学生やOBが出席した脇村奨学会の夏季研修会
(13日、田辺市文里2丁目で)

何故うまくか」を解説した。この後、懇親会では現役奨学生14人が一人ずつ登壇し、近況報告や将来の夢についてスピーチした。

奨学生やOBらは役員らと懇談し、交流を深めた。

白浜町出身で田辺高校卒の大阪大学工学部3年生の雑賀大輔さん(21)は「卒業してからも出席が多くて素晴らしい会だと思つ。役員である脇村家の人柄に魅入られる人が多いのでは」、初めて夏季研修に出席した愛知工業大学1年生の梅田素生さん(18)は「OBが多くて会のつながりの強さを感じる。今後も参加したい」と笑顔。会の脇村春夫代表理事(83)は「現役と卒業生が毎年集つるのは他の奨学会にない特色。今後も続けていきたい」と話した。

社長(49)が「白浜町に帰り、独学で地ビール会社を興す」をテーマに講演。真鍋社長は、実家の屋号「ナギサ」を名称に取り入れた地ビールづくりに取り組んできた経緯を報告。新工場造りを進める今後の夢についても語った。

この講演を受け、同会OBで1972年京都大学工学部卒で元サントリー役員で立命館大学客員教授の中谷和夫さん(66)が「ナギサビールが

紀南出身の大学生に奨学金を支給している公益財団法人「脇村奨学会」(田辺市中屋敷町)の夏季研修会が13日、同市文里2丁目のホテルであった。奨学生やそのOB、役員らが集まり、講演を聞いた。親睦を深めたりした。

毎年この日に開催している恒例の研修会。現役奨学生14人を含む約70人が出席した。研修では、白浜町の酒造業「ナギサビール」の真鍋和夫